

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	愛媛県四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 27年 10月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 11月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育園があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事ができている。また、近隣には関連施設の特養・ケアハウスがあり交流行事も多く、同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、建物の広さと明るさも特徴である。音楽ボランティアが来られた時は他事業所と交流したり、家族会で大人数が集合しても余裕を持って交流する事ができている。また、地域の小学校や高校・専門学校生との交流(インターンシップ受け入れ)を継続しており、将来の介護職員・認知症の理解につながるような関わりを働きかけている。受け入れ学生のうち2名が来年度入職を予定している。母体が医療機関であり、24時間緊急時の対応が可能であるため家族や利用者の安心につながっている。また、法人内のリハビリスタッフが週に1回訪問してADLの支援方法等の助言をくれており、この点も家族の安心につながっている。住み慣れたグループホームで最期を安らかに迎えられることができるように、看取りの実施も前向きに取り組んでいる。昨年度は2名の方の看取り介護を実施した。現在はそのご家族がボランティアとして協力して下さっている。退居されてからもご家族の方との結びつきが継続できている。また、8月から共用型デイサービスを開始。入居者と地域の利用者がグループホームで交流できるデイサービスは、大きなアピール点である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりを大切にして、理念である「ゆっくり・楽しく・いっしょに」を職員全員で心掛けて支援している。地域との関わりやお付き合いも豊富で、地域住民から気にかけてもらえる相互の関係づくりや取り組みをしている。緊急時にも母体が医療機関のため、訪問看護や往診など利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。法人の移管はあったが事業所は開設から10年以上が経過し、管理者は初心を忘れず前向きに取り組んでいる。法人内研修や外部研修に参加した場合には、事業所内で伝達講習を実施するなど職員の質の向上に努めている。家族会でアンケートを実施したり、家族に外出等の支援をしてもらったりするなど、家族の協力が得られるように、お互いの信頼関係を築く工夫もみられる。利用者の生活歴を知り、一人ひとりにふさわしい内容で人格を尊重したサービス提供をしている。また、職員の年齢差はあるが、あうんの呼吸でお互いが認め合い、明るく働きやすい事業所づくりがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏名 大倉 やよい

評価完了日 H27 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」である。覚えやすい文言に、職員で話し合っ決めて。入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供、コミュニケーションを大切に心穏やかに暮らせる環境づくり、入居者様の意見を尊重して自立の支援に取り組んでいる。理念はフロアの目に付くところに掲示し共有しており、職員会等で日頃の介護の反省や今後の取り組みを一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念・行動指針のほか、約2年前に分かりやすい事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成している。地域住民や家族、運営推進員などの協力を得て、「いっしょに」利用者が「たのしく」「ゆっくり」と、予定通りのことができなくても、利用者が笑顔で安全に過ごすことのできるよう理念に沿ったサービス提供に努めている。管理者をはじめ職員全員に理念はしっかり浸透し安心できる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 他事業所合同作品展開催・他事業所合同敬老会・盆踊り会・そうめん流し・六地藏法要・秋祭りなど、事業所以外の地域の方と交流している。地元小学校との七夕会や高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。推進会メンバーさんの野菜の提供など、入居者様に地元の方が多いため、地元の皆さんとの交流は大変喜ばれる。近隣に民家は少ないが、地域の人や外部の人に事業所に来てもらう取り組みに努めている。共用型デイサービスを開始し、地域の方との交流も幅が広がっている。</p> <p>(外部評価) 訪問調査日には運営推進員や地域住民を交え、利用者や職員が柿の皮むきなど干柿作りに精を出していた。民家から少し離れているが、地域住民の訪問も多く、応援していただいていることに管理者は心から感謝している。以前看取った利用者の娘と孫がギターを演奏し、継続してボランティアに訪問してきてくれている。地元の利用者が多く、面会者も多く地域とつながりながら生活している様子がよく分かる。月1回建物の1階にある保育所の園児との交流のほか、小学生との交流、高校生や専門学校からのボランティアの訪問があり、利用者に喜ばれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップの受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように、また将来の介護職につながるよう協力する取り組みを実践している。また、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成の協力をしたり、地域に貢献できる取り組みを行なっている。グループ内の「認知症を考える」プロジェクトチームに参加し、グループ内職員の認知症理解につながる研修を計画・実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月間の入居者様の変化や取り組みなどを報告し、それに対するご意見をいただいている。避難訓練に関しては、推進メンバーに消防団の方がいらっしやるため協力的である。訓練の様子を見て指導して下さったり、一緒に消防出前講座に参加して救急対応や防災に関する研修を受けて、意見をいただいている。運営推進会議後には入居者様との交流会を設ける事もあり、入居者様の現状を理解していただいたり地域の行事を教えていただいたりしている。推進メンバーの方の勤務先施設に入所されていた方の相談を受け、入居につながったケースもある。地域で困っている認知症の方の情報を地域包括支援センター職員に相談したり、共用型デイサービス利用につながったケースもある。また徘徊者の情報を市や警察に届けた事例など、地域ぐるみで認知症の方を支援できるように意見交換している。</p> <p>(外部評価) 民生委員や消防団長、婦人会、老人会、神社の神主など、幅広く多くの参加者を得て開催している。運営推進員は日頃から、訪問してくれたり旬のくだものや野菜などを持ってきてくれるなど、事業所のことをよく気にしてくれている。会議には職員も順番に参加し、様子を把握している。会議では外部評価の報告、避難訓練やミニ講座なども併せて行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市主催の出前講座(防災・救急)を開催して、市と連携がとれる取り組みをしており、市の方の出入りができる風通しのよい環境づくりに取り組んでいる。消防出前講座の「救命救急」では、今年度は2回実施し重度化に対応できるように取り組んでいる。当講座の時は、当グループホームに特化した内容で個別に助言もいただいている。また、キャラバンメイトの資格のある職員が、市からの依頼で地域に出て行って認知症理解につながる講演の講師役を務めている。また、市からは毎月ふれあい相談員の訪問があり、協力関係が築けている。</p> <p>(外部評価) 毎月ふれあい相談員の訪問があり、普段聞けない利用者の思いを聞いて職員に伝えているため、相談員は職員にとり大切な役割を果たしており、サービスに反映している。市内15か所あるグループホームの交流会があり、情報交換をし推進会議などに役立てている。また市高齢介護課とは認知症サポーター養成研修を一緒に実施したり、介護保険制度の改正について気軽に相談できる関係にある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関しては外部研修を受け、その伝達講習を実施している。全職員が「身体拘束は絶対にしてはならない」意識を常に持ちつつ、理解を深めている。「こういう行為は身体拘束にならないか・・・」などの普段の何気ない支援についても振り返り、利用者の立場に立った身体拘束のない支援を実践している。また、リスク委員がベッド柵等のラウンドも実施しており、身体拘束にならない支援を常に意識付けている。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束を絶対しない」という方針が職員に浸透しており、法人のリスク委員会に2名の委員の定期的参加、ヒヤリハットの原因究明のための話し合いや外部研修に参加し事業所で伝達研修をする取組みをしている。また、目に見える拘束や見えない拘束について、一つひとつ丁寧に学習し、「〇〇してはだめよ」など行動を制限するスピーチロックなど、何がいけないのか考え徹底している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修を受けて、伝達講習して理解を深めている。また、四国中央市で作成した「高齢者虐待予防マニュアル」を活用している。何気ない言葉かけやコミュニケーションをとる際も、利用者の尊厳を大切に、あらゆる面から虐待行為ではないか振り返ることができるように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見人制度の勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。現在、当事業所ではそれらを活用する利用者はいないが、今後必要性の高い方がいる場合は、速やかに活用し支援できるように研修を継続する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族・本人様に来ていただき、見学していただきよく検討していただきから契約を結んでいる。その時には、施設の環境や生活様式、グループホームの支援等を説明させていただいている。体験利用を希望される方には体験していただき、納得した上で契約をしていただいている。契約時には説明項目のチェック表を利用し、説明忘れが無いように注意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回、家族に予定表とお便りを送付する際、利用者の様子報告をしている。面会のある家族も多く、その都度様子報告などコミュニケーションをとるように努め、信頼関係を築いている。年2回の家族会への参加もほぼ全てのご家族が参加して下さっており、家族間の交流も図れている。家族アンケートも実施しており、結果は家族に知らせたり運営推進会議で報告して、意見や要望は反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 年2回家族会には運営推進員が参加し、アルバムを作り日々の利用者の様子を見てもらう工夫をしている。家族会の参加者にはアンケートを取っており、要望や普段の支援など意見がびっしり書かれている。意見を日々のサービスに反映するなど、家族や利用者一人ひとりの要望に対応できるよう取り組んでいる。家族からの要望を受け個別に訪問リハビリに来てもらったことはあるが、事業所に対応可能な範囲についてはきちんと伝えている。ご家族が安心できるようお便りには一筆書いて、日頃の様子も伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会には、法人の決定事項を報告したり現場の意見を聞いている。年度初めの事業目標 (BSC) は全職員で作成した。また、個人面接を実施し、意見や提案を聞く機会も設けている。利用者の支援に関係する事は、リーダーが中心になって必ずユニットで話し合っ、管理者に報告している。 外部研修へは出張として参加できるように、法人として積極的に職員の資質向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は介護職の大変さを理解し、少しでも負担を軽減しようと常日頃から考え、職員の意見を聞くようにしている。直接管理者に意見を言いづらい職員には、リーダーなどワンクッション置き、言いやすい職員の協力を得ながら、一緒に面接を行う工夫をしている。職員の心の内を上手に引き出し、ストレスを少なくできるような話しやすい、相談しやすい人材としてリーダーを置いており、職員は悩んでいることや困っていることを聞いてもらえることで、働く意欲の向上に繋がっている。バレーボールを職員同士でするなどストレス発散することもある。理事長も定期的に事業所を訪問し、意見を伝えることもできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 法人として人事考課制度を導入している。資格取得者には手当を支給したり、夜勤手当を見直して増やしたり、正職員への登用もあった。ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者を含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援や外部研修は、本人の自主性を尊重して自分で選択して参加している。外部研修後は職員会で伝達講習を実施し、まとめて発表するトレーニングにもつなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回り主催で開催している。4月には当グループホームが主催。地域包括支援センター職員に参加していただき、「四国中央市の認知症の現状と今後の取り組み」について情報交換することができた。また愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、東予地区研修会に参加している。他グループホームと意見交換した時は、その取り組みを伝達して、当事業所に活かすことができないか検討している。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス開始前は、見学または体験利用をしていただいて、じっくり本人とコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。また、入居前には利用中のサービス事業所への訪問や自宅訪問等をして、情報交換や本人とのコミュニケーションを図っている。今年度は、共用型デイサービス利用者から入居が決定した方がいた。デイ利用中にすでに家族や本人との信頼関係も築けており、スムーズな入居につながった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネから、それぞれの立場で取得している家族等の要望に耳を傾けている。これまでの家族の苦労や、今までのサービスの利用状況など、ゆっくりと聴いて関係作りに努めている。また、体験時の利用者の様子は家族に情報提供し、これから一緒に支援していく関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わってきた担当ケアマネ・他事業所・かかりつけ医等との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯干し・畳み、台所仕事、掃除など、個々の利用者ができることは一緒に会話を楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての悩みを聞いていただいたり、相談相手にもなっていただき、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者は無く、これまでの家族の苦労や葛藤を心に留めて、家族や利用者を支援している。そのため、家族には利用者の様子をきめ細かく伝えたり、相談をしているため、一緒に本人を支える協力関係を築く事ができている。字の書ける利用者には手紙やメッセージなどを書いていただいて家族との関係が途切れないように留意したり、日頃の暮らしぶりを写真付の暑中見舞いはがきや年賀状で送ったりしている。家族との外出が可能な方には協力をしていただいている。面会時は一緒にお茶を飲んでいただきながら会話を楽しんでいただき、絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族協力のもと、家族と一緒に外食したり、馴染みの美容室へ行ったり、自宅に帰って近隣の人と交流したり、地域の敬老会にも参加できるように、入居前の生活習慣を尊重している。地域の友人の面会もある。外出先に関しては、本人の日常発せられる会話から汲み取って、馴染みの人に会えるように支援をしている。 (外部評価) 馴染みの美容室の店主が送迎をしてくれ、お茶を飲んだり会話を楽しんだりするなど、培ってきた関係が途切れないよう支援している。家族や職員の協力を得て、地域のサロンに出かけていた利用者もいた。事業所は民家から離れているが、知人が敬老会の案内状を持って来てくれたり、面会に来てくれることもある。家族のいない利用者にも知り合いが訪ねてくるなど、安心した生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事・お茶・レクリエーションなど、居室にいる利用者にも必ず声かけして一緒に楽しんだり、孤立感を感じさせないようにしている。また、仲良し同士で会話を楽しめるように、畳ベンチを設置して環境も工夫している。利用者同士の関係性は職員が理解しており、感情で日々変化する事もあるので見守るようにしている。また、デイが開始され新しい関係性も広がっている。気持ちの通じ合う人同士が、一緒に食事をしたり生活できるように、座席は配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された方には、色紙や写真などを持って面会に行っている。また他施設に入所された場合はその施設の職員に、その後の様子を聞いたりしている。情報提供書は入所先の施設へ提供しているが、グループホーム退居後も入所施設から相談を受けることもある。その時は、こちらでの様子や支援内容について再度情報提供している。退居後も相談・支援に努めている。昨年度看取りで退居された方の家族とは、現在も関係を継続できており、現在はボランティア（ギター演奏と歌）として協力いただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活や会話を大切にし、利用者の思いの把握に努めている。ケアカンファレンスでは、アセスメントとしてセンター方式を用いており、家族から情報を得た時も職員間で情報共有し、本人の意向把握に努めている。思いを伝える事が困難な場合も、表情からくみ取って、返答しやすい質問にしたり、職員を交代するなどの工夫をして、本人の気持ちに沿った支援をしている。 (外部評価) 開設当初からの利用者もおり、加齢に伴いできなくなることも増えてきているが、入居時からの情報をサービスの糸口として大切にしながら、できるだけ希望を叶えている。ピアノが弾けなくなった利用者も、鍵盤に触れたり歌を歌ったりしている。言葉に言い表せない利用者にも、以前のみかん採りの話題を出し、枝付きみかんを持ってきてもらい往時を慕ってもらっている。また、長期に働く職員の情報も大切にしながら、職員のチームワークで日々の利用者の表情や会話から思いや意向を把握するようにしている。利用者は職員と一緒に来客者へのお茶出しなど、手伝いなどできる能力を活かした生活をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族に協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業所やケアマネからも情報を得て把握に努めている。コミュニケーション可能な利用者に関しては、寄り添って昔話を傾聴して、これまでの馴染みの暮らし方の情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員交代時には、本人の心身状態（排泄・睡眠・食事・気持ちの変化など）を確認している。1日の過ごし方の決定は本人にある。これまでの生活スタイルを重視しながら、且つ本人のできることを見極めて、有する力に見合った事を探している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画表では、利用者や家族との日頃の関わり方の中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また処遇記録では、利用者が話した言葉をそのまま残すように心がけている。毎月1回、職員全員で意見交換やモニタリングを行い、介護計画の支援内容の達成度や満足度を評価して見直している。</p> <p>(外部評価) 日々の利用者との関わりの中で利用者の発言や気づきを大切に記録に残し、介護計画やサービスに反映している。介護計画は家族から要望や希望を聞き、利用者本人がより良く暮らすための課題やケアの在り方などアイデアを盛り込み、利用者に応じたふさわしい計画になるよう努めている。利用者がさみしがらる場合に、ご主人に外食支援をしてもらう計画を入れたりもしている。6か月に1回の見直しを基本としているが、毎月職員全員で満足度や達成度などを含むモニタリングをしており、必要に応じて見直しをしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過表に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは、申し送りノートを活用して共有している。個別記録をもとに、モニタリングで評価し、介護計画の見直しを実施している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな ない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族が病院受診できない時は付き添ったり、急ぎょ外出したい気持ちになった時やそういう言動を感じた時は、利用者の状態を見ながら外出支援を行っている。また、家族だけで外出が不安な場合は、一緒に付き添って支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域のふるさと館で法人事業所と合同作品展を開催して、地域の方に作品を見ての感想をいただいている。また、地域の馴染みの美容室に出かけ、これまでの地域との生活が途絶えないように支援している。外出が困難な方には地域の理容院の訪問をお願いし散髪の協力をいただいている。消防署の出前講座では救急や防災の取り組みを、運営推進委員の人と一緒に研修を受け、安全な暮らしを支援できるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の医療機関が主治医である利用者が多いが、これまでの主治医の受診が継続できるように、家族の協力も得ながら支援をしている。母体病院以外の受診時も可能な限り同行し、主治医に情報提供をできるように努めている。家族と受診の場合は、体調面の情報提供を十分に家族に行い、受診後の医師からの診断内容を家族から聞いて記録し、職員で共有している。 (外部評価) ほとんどの利用者は母体医療機関をかかりつけ医としており、緊急時にも迅速な対応ができ、利用者や家族には安心感がある。受診時には、必要に応じて血液検査など健康管理をしている。専門医への受診も可能で、家族が同行できない場合には職員が付き添い、受診結果を報告し共有している。また、必要に応じて歯科医の往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。気づいたことがあれば看護師に報告し、適切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には医療機関へ情報提供を行い、グループホームでの状態・認知面について等、詳しく伝えるようにしている。約2日に1回は病院へ見舞うようにし、その都度状態を把握している。医師・看護師・ソーシャルワーカー・リハビリ・栄養士等と、退院に向けての回復状況の情報交換をし、できる限り早期の退院につなげられるように情報提供をいただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、本人・家族と話し合いを個別に持って意向を確認している。新規入居者に関しては入居時に方針を説明し確認している。しかし、家族の気持ちは揺れ動く事が多い事を理解し、本人の病状が悪化したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。家族は医師からの病状説明を受ける事ができるように主治医との連携を図り、家族の希望を再確認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。終末期に関する勉強会を開催し、外部研修・伝達講習を行うことで、職員間で看取りに関する取り組みを共有できるようにしている。訪問看護とも日々連携を図っており、昨年度は2名の方の看取り介護を支援することができた。スタッフ・家族に対して看取りに関するアンケートを実施し、看取り前の不安や看取り後の反省、家族の気持ちを共有する事で、今後の看取りに活かすことができるよう取り組んでいる。 (外部評価) 入居時に、看取りに関する指針を説明し、必要に応じて終末期意向確認書で確認している。法人の意向で看取り支援にも取り組むようになり、近年2名の看取りを経験している。看取りには訪問看護師や医師の往診などの協力を得、必要に応じて職員は看護師から支援方法などの技術を学んでいる。看取り後には家族から意見を聞いたり、職員に看取りの不安な点などのアンケートを取り、不安な点を一つひとつ解決するにはどうしたらいいか職員全員で話し合い、次のステップで今後の対策として活かしている。看取りは家族の協力のもと話し合いを重ね、意向に沿った支援を進めていく方向である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。看取りの入居者がいる時は、もっと細部の対応方法を作成し全職員が周知できるように取り組んだ。また、緊急時の初期対応ができるように、消防の出前講座「救命救急」を今年度は2回受講して、実践力を身につける取り組みをしている。入居者の急変で救急車を要請することがあったが、落ち着いて対応する事ができた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定で、消防署立会いの消防避難訓練を2回実施している。その際は、グループホーム周辺を見回って危険か所が無いかなど、実際の避難方法について消防の方や運営推進委員の方から助言をいただいている。それ以外にも避難自主訓練を実施している。また、火災以外の災害対策マニュアルを法人で作成している。日頃から防災意識を高めるため、物品（防災頭巾・備蓄品など）の準備も実施し、災害時の避難訓練も実施している。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練では、自信のない職員を優先に実践している。管理者は訓練時に不足なところはどこか確認し、職員全員で検討し、今後の訓練等に活かしている。緊急時には緊急通報システムで職員等に一齐に伝達でき安心できる。法人には防災対策マニュアルがあるが、運営推進員でも災害ボランティアコーディネーターの協力を得て、今年度中に事業所独自の災害防止マニュアルの作成を予定している。特に地震時に土砂崩れがあった際、道路が遮断された場合の対策も想定している。また、備蓄は水・ご飯、防災頭巾などを用意し、賞味期限も分かり易く表示する工夫をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時の失敗に関しては、さりげない声かけや支援で尊厳を失わないように対応している。入浴時や入室時なども、プライバシー保護に努めている。女性スタッフでの対応を希望される方にはできる限りそのように支援している。入居者に対する声かけの仕方などは職員会などで常に振り返り、方言は使いながらも利用者を尊重した対応を心がけるように確認し合っている。 (外部評価) 利用者に合った言葉かけをするよう努めている。利用者の呼び方は人格を尊重しながら名前を呼んでいるが、普段は「〇〇さん」と呼んでいても、少女に戻っている時や不安な状態の時には「〇〇ちゃん」と家族の了承を得て呼ぶなど、使い分けをしている。利用者の中には、家族のように「おばちゃん」と呼ばれるのを喜ぶ方もいる。利用者の尊重については、職員全員で振り返りを行っている。また、利用者はデイサービスも含め全員女性で、男性職員を嫌がる利用者には同性介助の対応もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物・行ってみたい所・やってみみたい事等）を聞きだせるようにコミュニケーションをとっている。また、言葉には表現できなくても、表情などで反応を注意深く判断して、本人の思いをキャッチできるように関わっている。職員会・フロア会では各職員がその情報を持ち寄って、今後の支援内容を共有できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的に1日の流れはあるが、体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・もう少し眠りたい・夜もテレビを見たい・夜も廊下を歩きたい・家族と電話で話をしたい・・・など、その時の状況を見ながら、一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットの手入れができるように支援したり、訪問美容師が来た時はお気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。また一緒に買い物に出かけてお気に入りの洋服を選んだり、自宅に帰ってお気に入りの洋服を持ってきたり、1日に何度もお化粧直しや衣装変えをしたり、自分で納得のいくおしゃれができるように見守り支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備・片づけが可能な方には、職員と一緒にさせていただき、役割を持って食事を楽しめるように支援している。誕生日や行事(祭りなど)には、お寿司や赤飯(本人が好む方)やケーキを作ったり、楽しみを持てるようにしている。メニューは、管理栄養士が立てた献立はあるが、利用者が食べたい物を、アレンジして提供できるようにしている。近隣の山で採った季節の筍や栗などは、一緒に下ごしらえをしながら献立を考え、職員も一緒に食卓を囲んで楽しく食べる事ができている。 (外部評価) 平成27年3月から、各ユニットに調理専属職員を置くことで、職員が利用者へのサービスに多くの時間が取れ、一人ひとりに丁寧に接する時間が増えている。専属職員は調理のほかにも利用者へのサービス提供なども手伝い、他の職員の手助けにもなっている。利用者は「美味しい、美味しい」と言いながら食事をしている。季節の旬の食材を使い、和洋中、甘味や酸味、色彩も豊かなメニューを調理し利用者からも喜ばれている。訪問日には利用者と一緒に柿の皮をむく姿も見られた。また、利用者と一緒に手作りのおやつも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては好きなものが飲めるように支援したり、水分量が確保できるように2時間おきに補給してもらって1日の総摂取量を把握している。利用者の好みを普段から把握し、定時に欲しくない時は時間を遅らせて提供するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。退院して嚥下障害がある方の食事作りに関しては、入院していた病院の管理栄養士から情報を得て、その利用者に応じた食事形態が支援できるように、退院前から情報共有しながら取り組んでいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には緑茶でうがいを実施している。食後の口腔ケアは、出来る方は自分で、出来ない方は介助し、義歯の洗浄・消毒・歯ブラシコップの消毒を行っている。口腔の異常を見つけた時は、歯科受診もしている。歯科受診が困難な方は、家族の協力も得ながら歯科主治医との連携を図り往診していただけるように依頼している。嚥下障害のある方に関しては、入院中の病院の言語聴覚士から口腔ケアの指導も受けて支援している。グループ法人の取り組みで、歯科医療連携室から歯科衛生士が来て「口腔ケア研修会」を実施している。研修会のみならず入居者個々の口腔内のチェックや支援方法の指導も今後は計画している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) チェック表に毎回排泄を記録し、個々の排泄パターンを把握している。またトイレでの排泄を大切にしている。移動が困難な利用者でも移乗が可能であれば、夜間はポータブルトイレを使用して自分で排泄するなど、できる能力は使いながら、できるだけ下着で生活できる支援をしている。尿取りパット・オムツの使用に関しては本人の状態に合わせて検討して見直しをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本目標として取り組んでおり職員にも浸透している。日々の利用者の立ち上がりや移動の様子を観察し、職員同士で話し合いながらトイレでの排泄を支援している。入院時にオムツをしていた利用者にも、身体状態や機能を確認し、オムツを早期にはずすことにも成功している。利用者にトイレの場所が分かりやすいよう表示をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分摂取量の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・繊維質の食事・牛乳を飲むなど実施し、個々に応じた便秘予防に取り組んでおり、排便の重要性について常に意識するようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) その日の状態に合わせて入浴が可能かどうか決めている。入浴できない利用者には清拭をして清潔保持を支援している。順番が来ても嫌がる利用者に対しては順番を後回しにしたり、なぜ入浴を嫌がるか考え、声かけする職員を交代して対応している。女性スタッフの介助を希望される利用者には、できる限り女性で対応できるように支援している。お湯の温度・浴槽に浸かる時間・入る順番など、できる範囲で本人の好みで支援している。</p> <p>(外部評価) 週3回を基本として、利用者は入浴することができる。入浴の願望がない利用者には、無理強いをすることなく時間や職員を代えて再度呼びかける工夫をしている。また、入浴を拒む理由も職員同士で話し合い、立ち上がりに不安のある利用者には2人体制で対応するようになった。希望者には同性介助の支援もしている。入浴できない日が続く場合は、清拭を行い清潔保持に努めている。利用者が入浴を楽しめるよう、ゆず湯や入浴剤を入れたり、入浴時間や温度を好みに合わせる工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その人の生活のペースで、昼寝したり心地よく眠れるように日中の活動に配慮している。寝付きにくい時は傍らで付き添ったり、温かい飲み物を飲んでもらったり、それでも眠れないときは会話を楽しんで眠れない事の不安を解消し、安心して過ごせる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を確認して、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得ている。薬一覧表(変更の度に更新)を作成し、利用者が何の薬を飲んでいるか理解するように努めており、きちんと内服できたかどうか二人の職員でチェックしている。内服薬の変更時は、「受診記録」を確認して、なぜ変更になったか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方、裁縫が得意な方、生け花が得意な方、アイロンかけが得意な方など、それぞれに役割を持っている。気分転換に屋外に出たり、お気に入りの歌を一緒に歌ったり、編み物をしたりなど、一人ひとりの生活歴を把握して得意な事が楽しみとして継続できるように支援している。年1回は市内の公共施設で作品展を開催し、作品作りが得意な方の生き甲斐につながっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、1階の保育園まで出かけて園児の登園時の朝の挨拶をしに行ったり、戸外に出られるように支援している。最近では、デイ利用者とドライブや花見・秋祭り太鼓見物に出かける機会が増えている。家族との外食・自宅への外泊・お墓参りなど、家族の協力も得ながら外出支援している。また大きな窓からは、景色を見ながら季節の移り変わりを感じる事ができるので、近隣の竹林や栗林に出かけ、季節の野菜(筍・栗)を収穫し、季節を感じられる献立を一緒に考えて一緒に調理する支援に取り組んでいる。 (外部評価) 利用者を3班程度に分け、ドライブを兼ねて阿波踊りの観覧や三島運動公園のバラ園、金砂湖などに出かけられるよう支援している。事業所の近隣の山では筍や栗が採れ、高齢のため一緒に取ることができない利用者は収穫の様子や風景を楽しんでいる。事業所の建物の1階には、法人等で働く親のための保育所があり、来園時にあいさつを交わしたり掃除を手伝ったりするなど、2階から降りていくことを楽しみにしている利用者もいる。帰宅願望のある利用者には、予め家族に声をかけ定期的に自宅に帰れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行で買い物支援した時は、個人の財布を持ち、支払いの際は自分で支払っていただけられるように見守っている。また預かり金の使用に関しては、家族と相談して合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には、交流行事でお世話になった地域の小学生や家族へ手紙を書いていただいている。また、親類の方に電話を掛けたり、元気な声を聞いていただいていた会話を楽しんでいた。暑中見舞いや年賀状には本人さんが一筆添えて、家族や大切な方に送れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りが無いいため、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので、明るくて外の景色も一望できゆったりと過ごす事ができる。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育園の子供達の声の聞いて和やかな時間を過ごせる様にしている。中庭には小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。廊下には畳ベンチを設置し、安全の確保と休憩・交流の場となっている。</p> <p>(外部評価) リビング、ダイニング、キッチンには仕切りがなく、広々とした空間には食事づくりの食欲をそそるいい匂いが漂っている。窓は大きくて空間は明るく、四季の移り変わりを眺めることができる。フロアの中心部に吹き抜け風のベランダがあり、廊下の内窓から見える小鳥の巣箱では、毎年すずめが巣を作り雛の巣立つ様子を観察しながら楽しむことができる。調査当日は、クリスマスモードの飾りつけがされ、利用者が作成したちぎり絵などに心躍らされる感じがした。リビングにはデイサービスの利用者のためのベッドが用意され、いつでも横になることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファ、窓際に机や椅子などを設置している。共用空間の中でも独りになったり気の合う利用者同士で思い思いに過ごせる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた家具（嫁入り道具の鏡台など）やテレビ・家族の写真・好きな歌手等の写真を持参され、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。小物が好きな利用者には、友人や家族が置物を持って来られる事があり、利用者が好みで並べて飾っている。</p> <p>(外部評価) 孫の結婚式の写真、大好きな歌手のポスターや写真に囲まれ、利用者に応じたゆったりした幸せな空間づくりをしている。利用者の状態に合わせて、床などに布団を敷いている部屋もある。入口の扉の上には、湿度調節のため水で濡らしたバスタオルを掛け、利用者の風邪予防にも一役かっている。災害時には、ナースコールライトの下に付箋を貼り、利用者が避難した場合には付箋を剥ぎ安否確認が取れる体制づくりをしている。各居室とも掃除が行き届き、清潔感にあふれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自分の居室がわかって移動できるように、表札や目印を付けたり案内板を設置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事ができるように椅子の設置もしている。日付は、日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており、「わかる工夫」をしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	愛媛県四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	H27年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育園があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事ができている。また、近隣には関連施設の特養・ケアハウスがあり交流行事も多く、同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、建物の広さと明るさも特徴である。音楽ボランティアが来られた時は他事業所と交流したり、家族会で大人数が集合しても余裕を持って交流する事ができている。また、地域の小学校や高校・専門学校生との交流(インターンシップ受け入れ)を継続しており、将来の介護職員・認知症の理解につながるような関わりを働きかけている。受け入れ学生のうち2名が来年度入職を予定している。母体が医療機関であり、24時間緊急時の対応が可能であるため家族や利用者の安心につながっている。また、法人内のリハビリスタッフが週に1回訪問してADLの支援方法等の助言をくれており、この点も家族の安心につながっている。住み慣れたグループホームで最期を安らかに迎えられることができるように、看取りの実施も前向きに取り組んでいる。昨年度は2名の方の看取り介護を実施した。現在はそのご家族がボランティアとして協力して下さっている。退居されてからもご家族の方との結びつきが継続できている。また、8月から共用型デイサービスを開始。入居者と地域の利用者がグループホームで交流できるデイサービスは、大きなアピール点である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりを大切にして、理念である「ゆつくり・楽しく・いっしょに」を職員全員で心掛けて支援している。地域との関わりやお付き合いも豊富で、地域住民から気にかけてもらえる相互の関係づくりや取組みをしている。緊急時にも母体が医療機関のため、訪問看護や往診など利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。法人の移管はあったが事業所は開設から10年以上が経過し、管理者は初心を忘れず前向きに取り組んでいる。法人内研修や外部研修に参加した場合には、事業所内で伝達講習を実施するなど職員の質の向上に努めている。家族会でアンケートを実施したり、家族に外出等の支援をしてもらったりするなど、家族の協力が得られるように、お互いの信頼関係を築く工夫もみられる。利用者の生活歴を知り、一人ひとりにふさわしい内容で人格を尊重したサービス提供をしている。また、職員の年齢差はあるが、あうんの呼吸でお互いが認め合い、明るく働きやすい事業所づくりがされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 24 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)

氏名 大倉 やよい

評価完了日 H27 年 10 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」である。覚えやすい文言に、職員で話し合っ決めて。入居者様一人ひとりのペースに合わせるケアの提供、コミュニケーションを大切に心穏やかに暮せる環境づくり、入居者様の意見を尊重して自立の支援に取り組んでいる。理念はフロアの目に付くところに掲示し共有しており、職員会等で日頃の介護の反省や今後の取り組みを一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念・行動指針のほか、約2年前に分かりやすい事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成している。地域住民や家族、運営推進員などの協力を得て、「いっしょに」利用者が「たのしく」「ゆっくり」と、予定通りのことができなくても、利用者が笑顔で安全に過ごすことのできるよう理念に沿ったサービス提供に努めている。管理者をはじめ職員全員に理念はしっかり浸透し安心できる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 他事業所合同作品展開催・他事業所合同敬老会・盆踊り会・そうめん流し・六地藏法要・秋祭りなど、事業所以外の地域の方と交流している。地元小学校との七夕会や高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。推進会メンバーさんの野菜の提供など、入居者様に地元の方が多いため、地元の皆さんとの交流は大変喜ばれる。近隣に民家は少ないが、地域の人や外部の人に事業所に来てもらう取り組みに努めている。共用型デイサービスを開始し、地域の方との交流も幅が広がっている。</p> <p>(外部評価) 訪問調査日には運営推進員や地域住民を交え、利用者や職員が柿の皮むきなど干柿作りに精を出していた。民家から少し離れているが、地域住民の訪問も多く、応援していただいていることに管理者は心から感謝している。以前看取った利用者の娘と孫がギターを演奏し、継続してボランティアに訪問してくれている。地元の利用者が多く、面会者も多く地域とつながりながら生活している様子がよく分かる。月1回建物の1階にある保育所の園児との交流のほか、小学生との交流、高校生や専門学校からのボランティアの訪問があり、利用者に喜ばれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップの受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように、また将来の介護職につながるよう協力する取り組みを実践している。また、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成の協力をしたり、地域に貢献できる取り組みを行なっている。グループ内の「認知症を考える」プロジェクトチームに参加し、グループ内職員の認知症理解につながる研修を計画・実施している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月間の入居者様の変化や取り組みなどを報告し、それに対するご意見をいただいている。避難訓練に関しては、推進メンバーに消防団の方がいらっしゃるため協力的である。訓練の様子を見て指導して下さったり、一緒に消防出前講座に参加して救急対応や防災に関する研修を受けて、意見をいただいている。運営推進会議後には入居者様との交流会を設ける事もあり、入居者様の現状を理解していただいたり地域の行事を教えていただいたりしている。推進メンバーの方の勤務先施設に入所されていた方の相談を受け、入居につながったケースもある。地域で困っている認知症の方の情報を地域包括支援センター職員に相談したり、共用型デイサービス利用につながったケースもある。また徘徊者の情報を市や警察に届けた事例など、地域ぐるみで認知症の方を支援できるように意見交換している。</p> <p>(外部評価) 民生委員や消防団長、婦人会、老人会、神社の神主など、幅広く多くの参加者を得て開催している。運営推進員は日頃から、訪問してくれたり旬のくだものや野菜などを持ってきてくれるなど、事業所のことをよく気にしてくれている。会議には職員も順番に参加し、様子を把握している。会議では外部評価の報告、避難訓練やミニ講座なども併せて行っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市主催の出前講座（防災・救急）を開催して、市と連携がとれる取り組みをしており、市の方の出入りができる風通しのよい環境づくりに取り組んでいる。消防出前講座の「救命救急」では、今年度は2回実施し重度化に対応できるように取り組んでいる。当講座の時は、当グループホームに特化した内容で個別に助言もいただいている。また、キャラバンメイトの資格のある職員が、市からの依頼で地域に出て行って認知症理解につながる講演の講師役を務めている。また、市からは毎月ふれあい相談員の訪問があり、協力関係が築けている。</p> <p>(外部評価) 毎月ふれあい相談員の訪問があり、普段聞けない利用者の思いを聞いて職員に伝えているため、相談員は職員にとり大切な役割を果たしており、サービスに反映している。市内15か所あるグループホームの交流会があり、情報交換をし推進会議などに役立てている。また市高齢介護課とは認知症サポーター養成研修を一緒に実施したり、介護保険制度の改正について気軽に相談できる関係にある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関しては外部研修を受け、その伝達講習を実施している。全職員が「身体拘束は絶対にしてはならない」意識を常に持ちつつ、理解を深めている。「こういう行為は身体拘束にならないか・・・」などの普段の何気ない支援についても振り返り、利用者の立場に立った身体拘束のない支援を実践している。また、リスク委員がベッド柵等のラウンドも実施しており、身体拘束にならない支援を常に意識付けている。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束を絶対にしない」という方針が職員に浸透しており、法人のリスク委員会に2名の委員の定期的参加、ヒヤリハットの原因究明のための話し合いや外部研修に参加し事業所で伝達研修をする取り組みをしている。また、目に見える拘束や見えない拘束について、一つひとつ丁寧に学習し、「〇〇してはだめよ」など行動を制限するスピーチロックなど、何がいけないのか考え徹底している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修を受けて、伝達講習して理解を深めている。また、四国中央市で作成した「高齢者虐待予防マニュアル」を活用している。何気ない言葉かけやコミュニケーションをとる際も、利用者の尊厳を大切に、あらゆる面から虐待行為ではないか振り返ることができるように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見人制度の勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。現在、当事業所ではそれらを活用する利用者はいないが、今後必要性の高い方がいる場合は、速やかに活用し支援できるように研修を継続する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族・本人様に来ていただき、見学していただきよく検討していただきから契約を結んでいる。その時には、施設の環境や生活様式、グループホームの支援等を説明させていただいている。体験利用を希望される方には体験していただき、納得した上で契約をさせていただいている。契約時には説明項目のチェック表を利用し、説明忘れが無いように注意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回、家族に予定表とお便りを送付する際、利用者の様子報告をしている。面会のある家族も多く、その都度様子報告などコミュニケーションをとるように努め、信頼関係を築いている。年2回の家族会への参加もほぼ全てのご家族が参加して下さっており、家族間の交流も図れている。家族アンケートも実施しており、結果は家族に知らせたり運営推進会議で報告して、意見や要望は反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 年2回家族会には運営推進員が参加し、アルバムを作り日々の利用者の様子を見てもらう工夫をしている。家族会の参加者にはアンケートを取っており、要望や普段の支援など意見がびっしり書かれている。意見を日々のサービスに反映するなど、家族や利用者一人ひとりの要望に対応できるように取り組んでいる。家族からの要望を受け個別に訪問リハビリに来てもらったことはあるが、事業所に対応可能な範囲についてはきちんと伝えている。ご家族が安心できるようお便りには一筆書いて、日頃の様子も伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会には、法人の決定事項を報告したり現場の意見を聞いている。年度初めの事業目標 (BSC)は全職員で作成した。また、個人面接を実施し、意見や提案を聞く機会も設けている。利用者の支援に関係する事は、リーダーが中心になって必ずユニットで話し合っ、管理者に報告している。外部研修へは出張として参加できるように、法人として積極的に職員の資質向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は介護職の大変さを理解し、少しでも負担を軽減しようと常日頃から考え、職員の意見を聞くようにしている。直接管理者に意見を言いづらい職員には、リーダーなどワンクッション置き、言いやすい職員の協力を得ながら、一緒に面接を行う工夫をしている。職員の心の内を上手に引き出し、ストレスを少なくできるような話しやすい、相談しやすい人材としてリーダーを置いており、職員は悩んでいることや困っていることを聞いてもらえることで、働く意欲の向上に繋がっている。バレーボールを職員同士でするなどストレス発散することもある。理事長も定期的に事業所を訪問し、意見を伝えることもできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 法人として人事考課制度を導入している。資格取得者には手当を支給したり、夜勤手当を見直して増やしたり、正職員への登用もあった。ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者を含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援や外部研修は、本人の自主性を尊重して自分で選択して参加している。外部研修後は職員会で伝達講習を実施し、まとめて発表するトレーニングにもつなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回り主催で開催している。4月には当グループホームが主催。地域包括支援センター職員に参加していただき、「四国中央市の認知症の現状と今後の取り組み」について情報交換することができた。また愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、東予地区研修会に参加している。他グループホームと意見交換した時は、その取り組みを伝達して、当事業所に活かすことができないか検討している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス開始前は、見学または体験利用をしていただいて、じっくり本人とコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。また、入居前には利用中のサービス事業所への訪問や自宅訪問等をして、情報交換や本人とのコミュニケーションを図っている。今年度は、共用型デイサービス利用者から入居が決定した方がいた。デイ利用中にすでに家族や本人との信頼関係も築けており、スムーズな入居につながった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネから、それぞれの立場で取得している家族等の要望に耳を傾けている。これまでの家族の苦労や、今までのサービスの利用状況など、ゆっくりと聴いて関係作りに努めている。また、体験時の利用者の様子は家族に情報提供し、これから一緒に支援していく関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わってきた担当ケアマネ・他事業所・かかりつけ医等との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯干し・畳み、台所仕事、掃除など、個々の利用者ができることは一緒に会話を楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての悩みを聞いていただいたり、相談相手にもなってもらい、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者は無く、これまでの家族の苦労や葛藤を心に留めて、家族や利用者を支援している。そのため、家族には利用者の様子をきめ細かく伝えたり、相談をしているため、一緒に本人を支える協力関係を築く事ができている。字の書ける利用者には手紙やメッセージなどを書いていただいて家族との関係が途切れないように留意したり、日頃の暮らしぶりを写真付の暑中見舞いはがきや年賀状で送ったりしている。家族との外出が可能な方には協力をしていただいている。面会時は一緒にお茶を飲んでいただきながら会話を楽しんでいただき、絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族協力のもと、家族と一緒に外食したり、馴染みの美容室へ行ったり、自宅に帰って近隣の人と交流したり、地域の敬老会にも参加できるように、入居前の生活習慣を尊重している。地域の友人の面会もある。外出先に関しては、本人の日常発せられる会話から汲み取って、馴染みの人に会えるように支援をしている。 (外部評価) 馴染みの美容室の店主が送迎をしてくれ、お茶を飲んだり会話を楽しんだりするなど、培ってきた関係が途切れないよう支援している。家族や職員の協力を得て、地域のサロンに出かけていた利用者もいた。事業所は民家から離れているが、知人が敬老会の案内状を持って来てくれたり、面会に来てくれることもある。家族のいない利用者にも知り合いが訪ねてくるなど、安心した生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事・お茶・レクリエーションなど、居室にいる利用者にも必ず声かけして一緒に楽しんだり、孤立感を感じさせないようにしている。また、仲良し同士で会話を楽めるように、畳ベンチを設置して環境も工夫している。利用者同士の関係性は職員が理解しており、感情で日々変化する事もあるので見守るようにしている。また、デイが開始され新しい関係性も広がっている。気持ちの通じ合う人同士が、一緒に食事をしたり生活できるように、座席は配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された方には、色紙や写真などを持って面会に行っている。また他施設に入所された場合はその施設の職員に、その後の様子を聞いたりしている。情報提供書は入所先の施設へ提供しているが、グループホーム退居後も入所施設から相談を受けることもある。その時は、こちらでの様子や支援内容について再度情報提供している。退居後も相談・支援に努めている。昨年度看取りで退居された方の家族とは、現在も関係を継続できおり、現在はボランティア（ギター演奏と歌）として協力いただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活や会話を大切にし、利用者の思いの把握に努めている。ケアカンファレンスでは、アセスメントとしてセンター方式を用いており、家族から情報を得た時も職員間で情報共有し、本人の意向把握に努めている。思いを伝える事が困難な場合も、表情からくみ取って、返答しやすい質問にしたり、職員を交代するなどの工夫をして、本人の気持ちに沿った支援をしている。 (外部評価) 開設当初からの利用者もおり、加齢に伴いできなくなることも増えてきているが、入居時からの情報をサービスの糸口として大切にしながら、できるだけ希望を叶えている。ピアノが弾けなくなった利用者も、鍵盤に触れたり歌を歌ったりしている。言葉に言い表せない利用者にも、以前のみかん採りの話題を出し、枝付きみかんを持ってきてもらい往時を慕んでもらっている。また、長期に働く職員の情報も大切にしながら、職員のチームワークで日々の利用者の表情や会話から思いや意向を把握するようにしている。利用者は職員と一緒に来客者へのお茶出しなど、手伝いなどできる能力を活かした生活をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族に協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業所やケアマネからも情報を得て把握に努めている。コミュニケーション可能な利用者に関しては、寄り添って昔話を傾聴して、これまでの馴染みの暮らし方の情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員交代時には、本人の心身状態（排泄・睡眠・食事・気持ちの変化など）を確認している。1日の過ごし方の決定は本人にある。これまでの生活スタイルを重視しながら、且つ本人のできることを見極めて、有する力に見合った事を探している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画表では、利用者や家族との日頃の関わり方の中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また処遇記録では、利用者が話した言葉をそのまま残すように心がけている。毎月1回、職員全員で意見交換やモニタリングを行い、介護計画の支援内容の達成度や満足度を評価して見直している。</p> <p>(外部評価) 日々の利用者との関わりの中で利用者の発言や気づきを大切に記録に残し、介護計画やサービスに反映している。介護計画は家族から要望や希望を聞き、利用者本人がより良く暮らすための課題やケアの在り方などアイデアを盛り込み、利用者に応じたふさわしい計画になるよう努めている。利用者がさみしがらる場合に、ご主人に外食支援をしてもらう計画を入れたりもしている。6か月に1回の見直しを基本としているが、毎月職員全員で満足度や達成度などを含むモニタリングをしており、必要に応じて見直しをしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過表に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは、申し送りノートを活用して共有している。個別記録をもとに、モニタリングで評価し、介護計画の見直しを実施している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族が病院受診できない時は付き添ったり、急ぎで外出したい気持ちになった時やそういう言動を感じた時は、利用者の状態を見ながら外出支援を行っている。また、家族だけで外出が不安な場合は、一緒に付き添って支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域のふるさと館で法人事業所と合同作品展を開催して、地域の方に作品を見ての感想をいただいている。また、地域の馴染みの美容室に出かけ、これまでの地域との生活が途絶えないように支援している。外出が困難な方には地域の理容院の訪問をお願いし散髪の協力をしていただいている。消防署の出前講座では救急や防災の取り組みを、運営推進委員の人と一緒に研修を受け、安全な暮らしを支援できるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の医療機関が主治医である利用者が多いが、これまでの主治医の受診が継続できるように、家族の協力も得ながら支援をしている。母体病院以外の受診時も可能な限り同行し、主治医に情報提供をできるように努めている。家族と受診の場合は、体調面の情報提供を十分に家族に行い、受診後の医師からの診断内容を家族から聞いて記録し、職員で共有している。 (外部評価) ほとんどの利用者は母体医療機関をかかりつけ医としており、緊急時にも迅速な対応ができ、利用者や家族には安心感がある。受診時には、必要に応じて血液検査など健康管理をしている。専門医への受診も可能で、家族が同行できない場合には職員が付き添い、受診結果を報告し共有している。また、必要に応じて歯科医の往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。気づいたことがあれば看護師に報告し、適切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には医療機関へ情報提供を行い、グループホームでの状態・認知面について等、詳しく伝えるようにしている。約2日に1回は病院へ見舞うようにし、その都度状態を把握している。医師・看護師・ソーシャルワーカー・リハビリ・栄養士等と、退院に向けての回復状況の情報交換をし、できる限り早期の退院につなげられるように情報提供をさせていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、本人・家族と話し合いを個別に持って意向を確認している。新規入居者に関しては入居時に方針を説明し確認している。しかし、家族の気持ちは揺れ動く事が多い事を理解し、本人の病状が悪化したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。家族は医師からの病状説明を受ける事ができるように主治医との連携を図り、家族の希望を再確認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。終末期に関する勉強会を開催し、外部研修・伝達講習を行うことで、職員間で看取りに関する取り組みを共有できるようにしている。訪問看護とも日々連携を図っており、昨年度は2名の方の看取り介護を支援することができた。スタッフ・家族に対して看取りに関するアンケートを実施し、看取り前の不安や看取り後の反省、家族の気持ちを共有する事で、今後の看取りに活かすことができるよう取り組んでいる。 (外部評価) 入居時に、看取りに関する指針を説明し、必要に応じて終末期意向確認書で確認している。法人の意向で看取り支援にも取り組むようになり、近年2名の看取りを経験している。看取りには訪問看護師や医師の往診などの協力を得、必要に応じて職員は看護師から支援方法などの技術を学んでいる。看取り後には家族から意見を聞いたり、職員に看取りの不安な点などのアンケートを取り、不安な点の一つひとつ解決するにはどうしたらいいか職員全員で話し合い、次のステップで今後の対策として活かしている。看取りは家族の協力のもと話し合いを重ね、意向に沿った支援を進めていく方向である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。看取りの入居者がいる時は、もっと細部の対応方法を作成し全職員が周知できるように取り組んだ。また、緊急時の初期対応ができるように、消防の出前講座「救命救急」を今年度は2回受講して、実践力を身につける取り組みをしている。入居者の急変で救急車を要請することがあったが、落ち着いて対応する事ができた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定で、消防署立会いの消防避難訓練を2回実施している。その際は、グループホーム周辺を見回って危険か所が無いかな・実際の避難方法について消防の方や運営推進委員の方から助言をいただいている。それ以外にも避難自主訓練を実施している。また、火災以外の災害対策マニュアルを法人で作成している。日頃から防災意識を高めるため、物品（防災頭巾・備蓄品など）の準備も実施し、災害時の避難訓練も実施している。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練では、自信のない職員を優先に実践している。管理者は訓練時に不足なところはどこか確認し、職員全員で検討し、今後の訓練等に活かしている。緊急時には緊急通報システムで職員等に一斉に伝達でき安心できる。法人には防災対策マニュアルがあるが、運営推進員でも災害ボランティアコーディネーターの協力を得て、今年度中に事業所独自の災害防止マニュアルの作成を予定している。特に地震時に土砂崩れがあった際、道路が遮断された場合の対策も想定している。また、備蓄は水・ご飯、防災頭巾などを用意し、賞味期限も分かり易く表示する工夫をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時の失敗に関しては、さりげない声かけや支援で尊厳を失わないように対応している。入浴時や入室時なども、プライバシー保護に努めている。女性スタッフでの対応を希望される方にはできる限りそのように支援している。入居者に対する声かけの仕方などは職員会などで常に振り返り、方言は使いながらも利用者を尊重した対応を心がけるように確認し合っている。 (外部評価) 利用者に合った言葉かけをするよう努めている。利用者の呼び方は人格を尊重しながら名前を呼んでいるが、普段は「〇〇さん」と呼んでいても、少女に戻っている時や不安な状態の時には「〇〇ちゃん」と家族の了承を得て呼ぶなど、使い分けをしている。利用者の中には、家族のように「おばちゃん」と呼ばれるのを喜ぶ方もいる。利用者の尊重については、職員全員で振り返りをしている。また、利用者はデイサービスも含め全員女性で、男性職員を嫌がる利用者には同性介助の対応もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物・行ってみたい所・やってみたい事等）を聞きだせるようにコミュニケーションをとっている。また、言葉には表現できなくても、表情などで反応を注意深く判断して、本人の思いをキャッチできるように関わっている。職員会・フロア会では各職員がその情報を持ち寄って、今後の支援内容を共有できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的に1日の流れはあるが、体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・もう少し眠りたい・夜もテレビを見たい・夜も廊下を歩きたい・家族と電話で話をしたい・・・など、その時の状況を見ながら、一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットの手入れができるように支援したり、訪問理容師が来た時はお気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。また一緒に買い物に出かけてお気に入りの洋服を選んだり、自宅に帰ってお気に入りの洋服を持ってきたり、1日に何度もお化粧直しや衣装変えをしたり、自分で納得のいくおしゃれができるように見守り支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備・片づけが可能な方には、職員と一緒に行っていただき、役割を持って食事を楽しめるように支援している。誕生日や行事(祭りなど)には、お寿司や赤飯(本人が好む方)やケーキを作ったり、楽しさを持てるようにしている。メニューは、管理栄養士が立てた献立はあるが、利用者が食べたい物を、アレンジして提供できるようにしている。近隣の山で採った季節の筍や栗などは、一緒に下ごしらえをしながら献立を考え、職員も一緒に食卓を囲んで楽しく食べる事ができている。 (外部評価) 平成27年3月から、各ユニットに調理専属職員を置くことで、職員が利用者へのサービスに多くの時間が取れ、一人ひとりに丁寧に接する時間が増えている。専属職員は調理のほかにも利用者へのサービス提供なども手伝い、他の職員の手助けにもなっている。利用者は「美味しい、美味しい」と言いながら食事をしている。季節の旬の食材を使い、和洋中、甘味や酸味、色彩も豊かなメニューを調理し利用者からも喜ばれている。訪問日には利用者と一緒に柿の皮をむく姿も見られた。また、利用者と一緒に手作りのおやつも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては好きなものが飲めるように支援したり、水分量が確保できるように2時間おきに補給してもらって1日の総摂取量を把握している。利用者の好みを普段から把握し、定時に欲しくない時は時間を遅らせて提供するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。退院して嚥下障害がある方の食事作りに関しては、入院していた病院の管理栄養士から情報を得て、その利用者に応じた食事形態が支援できるように、退院前から情報共有しながら取り組んでいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には緑茶でうがいを実施している。食後の口腔ケアは、出来る方は自分で、出来ない方は介助し、義歯の洗浄・消毒・歯ブラシコップの消毒を行っている。口腔の異常を見つけた時は、歯科受診もしている。歯科受診が困難な方は、家族の協力も得ながら歯科主治医との連携を図り往診していただけるように依頼している。嚥下障害のある方に関しては、入院中の病院の言語聴覚士から口腔ケアの指導も受けて支援している。グループ法人の取り組みで、歯科医療連携室から歯科衛生士が来て「口腔ケア研修会」を実施している。研修会のみならず入居者個々の口腔内のチェックや支援方法の指導も今後は計画している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>チェック表に毎回排泄を記録し、個々の排泄パターンを把握している。またトイレでの排泄を大切にしている。移動が困難な利用者でも移乗が可能であれば、夜間はポータブルトイレを使用して自分で排泄するなど、できる能力は使いながら、できるだけ下着で生活できる支援をしている。尿取りパット・オムツの使用に関しては本人の状態に合わせて検討して見直しをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本目標として取り組んでおり職員にも浸透している。日々の利用者の立ち上がりや移動の様子を観察し、職員同士で話し合いながらトイレでの排泄を支援している。入院時にオムツをしていた利用者にも、身体状態や機能を確認し、オムツを早期にはずすことにも成功している。利用者にトイレの場所が分かりやすいよう表示をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取量の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・繊維質の食事・牛乳を飲むなど実施し、個々に応じた便秘予防に取り組んでおり、排便の重要性について常に意識するようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その日の状態に合わせて入浴が可能かどうか決めている。入浴できない利用者には清拭をして清潔保持を支援している。順番が来ても嫌がる利用者に対しては順番を後回しにしたり、なぜ入浴を嫌がるか考え、声かけする職員を交代して対応している。女性スタッフの介助を希望される利用者には、できる限り女性で対応できるように支援している。お湯の温度・浴槽に浸かる時間・入る順番など、できる範囲で本人の好みに合わせて支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回を基本として、利用者は入浴することができる。入浴の願望がない利用者には、無理強いをすることなく時間や職員を代えて再度呼びかける工夫をしている。また、入浴を拒む理由も職員同士で話し合い、立ち上がりに不安のある利用者には2人体制で対応するようになった。希望者には同性介助の支援もしている。入浴できない日が続く場合は、清拭を行い清潔保持に努めている。利用者が入浴を楽しめるよう、ゆず湯や入浴剤を入れたり、入浴時間や温度を好みに合わせる工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活のペースで、昼寝したり心地よく眠れるように日中の活動に配慮している。寝付きにくい時は傍らで付き添ったり、温かい飲み物を飲んでもらったり、それでも眠れないときは会話を楽しんで眠れない事の不安を解消し、安心して過ごせる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を確認して、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得ている。薬一覧表(変更の度に更新)を作成し、利用者が何の薬を飲んでいるか理解するように努めており、きちんと内服できたかどうか二人の職員でチェックしている。内服薬の変更時は、「受診記録」を確認して、なぜ変更になったか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事準備が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方、裁縫が得意な方、生け花が得意な方、アイロンかけが得意な方など、それぞれに役割を持っている。気分転換に屋外に出たり、お気に入りの歌を一緒に歌ったり、編み物をしたりなど、一人ひとりの生活歴を把握して得意な事が楽しみとして継続できるように支援している。年1回は市内の公共施設で作品展を開催し、作品作りが得意な方の生き甲斐につながっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、1階の保育園まで出かけて園児の登園時の朝の挨拶をしに行ったり、戸外に出られるように支援している。最近では、デイ利用者とドライブや花見・秋祭り太鼓見物に出かける機会が増えている。家族との外食・自宅への外泊・お墓参りなど、家族の協力も得ながら外出支援している。また大きな窓からは、景色を見ながら季節の移り変わりを感じる事ができるので、近隣の竹林や栗林に出かけ、季節の野菜(筍・栗)を収穫し、季節を感じられる献立を一緒に考えて一緒に調理する支援に取り組んでいる。 (外部評価) 利用者を3班程度に分け、ドライブを兼ねて阿波踊りの観覧や三島運動公園のバラ園、金砂湖などに出かけられるよう支援している。事業所の近隣の山では筍や栗が採れ、高齢のため一緒に取ることができない利用者は収穫の様子や風景を楽しんでいる。事業所の建物の1階には、法人等で働く親のための保育所があり、来園時にあいさつを交わしたり掃除を手伝ったりするなど、2階から降りていくことを楽しみにしている利用者もいる。帰宅願望のある利用者には、予め家族に声をかけ定期的に自宅に帰れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行で買い物支援した時は、個人の財布を持ち、支払いの際は自分で支払っていただけられるように見守っている。また預かり金の使用に関しては、家族と相談して合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には、交流行事でお世話になった地域の小学生や家族へ手紙を書いていただいている。また、親類の方に電話を掛けたり、元気な声を聞いていただいて会話を楽しんでもらっている。暑中見舞いや年賀状には本人さんが一筆添えて、家族や大切な方に送れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りが無いので、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので、明るくて外の景色も一望できゆったりと過ごす事ができる。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育園の子供達の声の聞いて和やかな時間を過ごせる様にしている。中庭には小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。廊下には畳ベンチを設置し、安全の確保と休憩・交流の場となっている。</p> <p>(外部評価) リビング、ダイニング、キッチンには仕切りがなく、広々とした空間には食事づくりの食欲をそそるいい匂いが漂っている。窓は大きくて空間は明るく、四季の移り変わりを眺めることができる。フロアを中心に吹き抜け風のベランダがあり、廊下の内窓から見える小鳥の巣箱では、毎年ずめが巣を作り雛の巣立つ様子を観察しながら楽しむことができる。調査当日は、クリスマスモードの飾りつけがされ、利用者が作成したちぎり絵などに心躍らされる感じがした。リビングにはデイサービスの利用者のためのベッドが用意され、いつでも横になることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファ、窓際に机や椅子などを設置している。共用空間の中でも独りになったり気の合う利用者同士で思い思いに過ごせる様に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた家具（嫁入り道具の鏡台など）やテレビ・家族の写真・好きな歌手等の写真を持参され、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。小物が好きな利用者には、友人や家族が置物を持って来られる事があり、利用者が好みで並べて飾っている。</p> <p>(外部評価) 孫の結婚式の写真、大好きな歌手のポスターや写真に囲まれ、利用者に応じたゆったりした幸せな空間づくりをしている。利用者の状態に合わせて、床などに布団を敷いている部屋もある。入口の扉の上には、湿度調節のため水で濡らしたバスタオルを掛け、利用者の風邪予防にも一役かっている。災害時には、ナースコールライトの下に付箋を貼り、利用者が避難した場合には付箋を剥ぎ安否確認が取れる体制づくりをしている。各居室とも掃除が行き届き、清潔感にあふれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自分の居室がわかって移動できるように、表札や目印を付けたり案内板を設置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事ができるように椅子の設置もしている。日付は、日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており、「わかる工夫」をしている。</p>	